



— さっそくですが、今回の個展のテーマを教えてください。

戸泉 個展のタイトルを「まぼろし」に決めたので、テーマもそれに沿ったものになります。

— なるほど。制作中の作品に、これまではなかった三美神というモチーフが出てきますが、「まぼろし」と関係があるのですか？

戸泉 基本は、これまでのテーマの延長線



《黄金のリンゴ》
130.3 x 194.0 cm / アクリル、キャンバス、パネル / 2019年

時代を写す鏡として、
非現実の世界を
現実のように見せる
シュルレアリスムの作品



戸泉恵徳

REIJINSHA GALLERY での3度目の開催となる、
2020年のスタート企画「戸泉恵徳展」。

彼の代名詞ともいえるピンクの兵士が、

今度はどうな物語を我々に見せてくれるだろうか。

昨年10月末、制作大詰めのアトリエを訪れ、

個展のテーマや大作制作の秘話に迫った。



上です。僕が持っている戦いのイメージは、ずっとゲームとかアニメといった非現実的なものの中にありました。今回、そのイメージの延長線上に目を付けたのが、ギリシャ神話です。神話にも戦いのシーンが多く出てきますが、それも結局は人の創造の物語。昔から伝わってきた神話と自分の世界観をダブらせることで、虚構のイメージに繋がられるのではないかと考えています。『黄金のリンゴ』という作品の背景には、こんな話があります。パリスという男が自分の最も理想とする女神にリンゴを渡したところ、それがきっかけで戦争が起きてしまうという話です。パリスに選んでもらいたい三美神（ヘラ、アテナ、アフロディーテ）は、地上の支配権や絶対的勝利といった公約のようなものを立てます。結局、パリスは「人間界で一番の美女を与える」と約束した、愛と美の女神・アフロディーテを選ぶのですが、その人間界の美女というのがスパルタ王妃ヘレネだったことから、スパルタ王の逆鱗に触れ、国同士

の戦い、トロイヤ戦争に繋がります。制作中の『黄金のリンゴ』には、ルーベンスの『パリスの審判』の三美神を引用しています。その絵が画面中央にある黄金のリンゴに写っており、画面の左端には幻の兵士が走っていたり、指揮官が指差していたり……。右側にあるのは木馬のおもちゃ。なぜ木馬かという点、トロイヤ戦争で最も有名なのはトロイの木馬だからです。この戦いではアキレスという男が活躍します。しかし、最後はアキレス腱を黄金の矢で射抜かれて倒れてしま